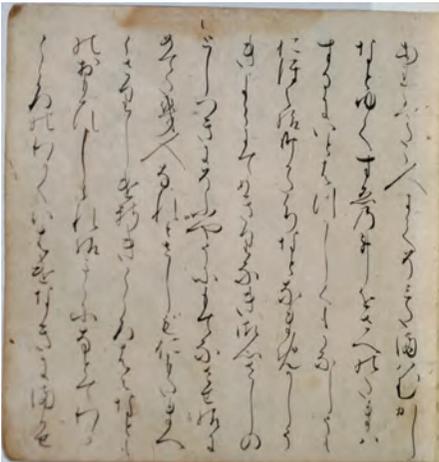
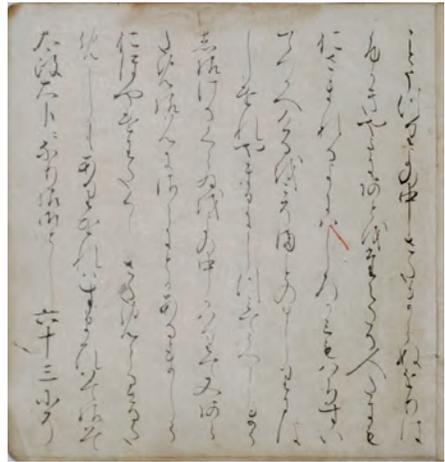


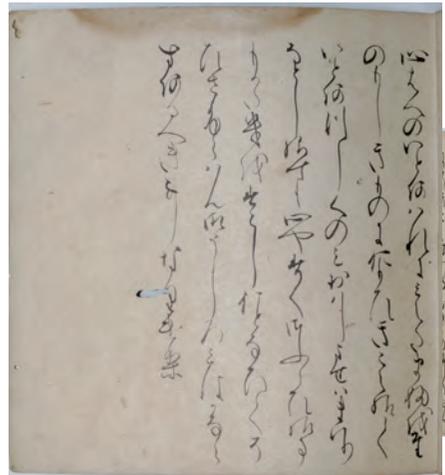


Genji-Monogatari. Manuscript in 13C.

1 源氏物語 濡標巻 鎌倉時代筆
 一帖 一〇、〇〇〇、〇〇〇円
 樹形本、十行、青表紙本系本文
 15.7×15.2 糶 鳥の子紙、雲英散
 らし、墨付き四十六丁。
 巻首から二丁は、かなりのスピ
 ード感があり、細い線も自在な能
 筆。以下は世尊寺行房を彷彿とさ
 せる筆致。
 巻首
 「さやかにみえ給しゆめの、ちは院
 のミかとの御ことをこころにかけ
 きこえたまひていかてかのしつミ
 たまふらむつミすくひたてまつる
 ことをせむと・・・」



巻首遊び紙
右上に巻名

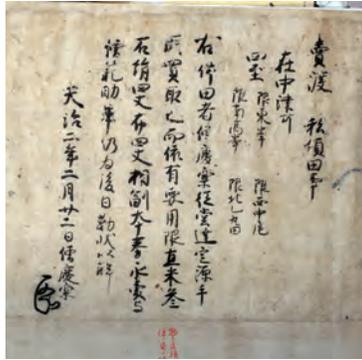


参考図版
世尊寺行房筆
(?-1337)





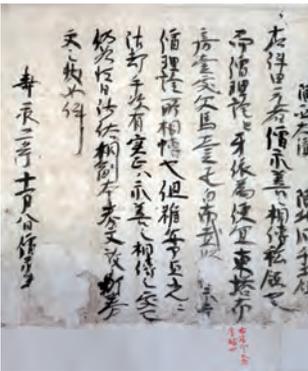
謹解申賣買田立券之事
保延2年 (1136)



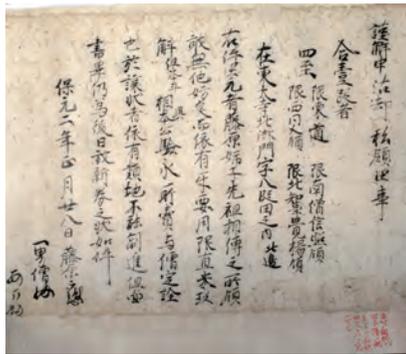
賣渡私領田事 天治2(1125)



賣渡私開發谷地事
天仁元年 (1108)



諒相伝田地 寿永2(1183)



「在東大寺北御門・・・」
沽却私領田事 保元2年 (1157)

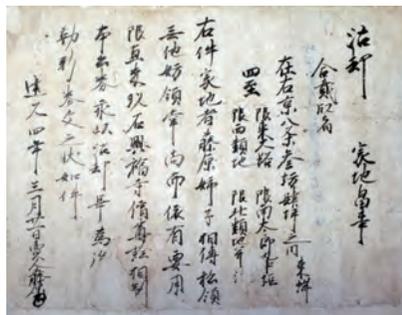


下の朱註に、
五人組奥書之古風



沽却田地 正治2 (1200)

授与上野阿闍梨禅覚
応永27年 (1420)



沽却家地畠事 建久4 (1193)

廃棄文書か 八幡宮大鳥居等造営



嘉吉元年 (1211)

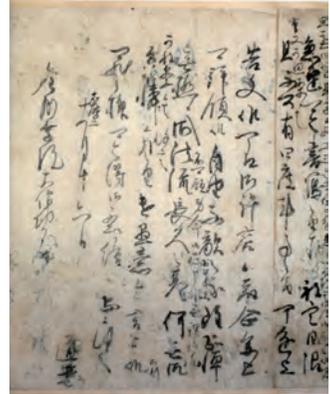
2 平安・鎌倉・南北朝・室町期 沽却文書等
乾卷十八紙 坤卷十五紙 二卷 一〇、〇〇〇、〇〇〇円
図版の他は、建保二年、同三年、安貞二年、貞永元年、
同二年、天福二年二点、文永五年、建治二年、弘安二年、
弘安五年、康永二年四点、延文二年、永徳三年、応永二
年、文明二年、文明十六年など。



細川高国



浄土宗 道意 嘉暦2年
天養元(1144)-正平10(1327)
(1355)



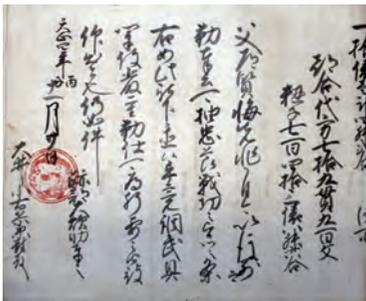
浄土宗 道意 嘉暦2年



赤松満政



赤松満政



武田氏龍紋朱印 天正4年
知行目録 跡部勝資



細川晴元

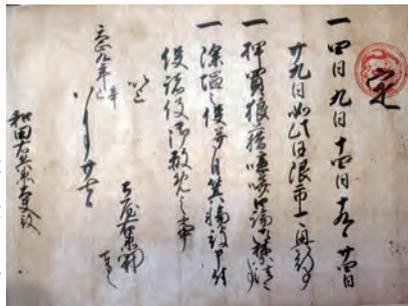


大内義隆

上部 毛利輝元 天正14年



武田氏龍紋朱印 定
天正九年 土屋昌統

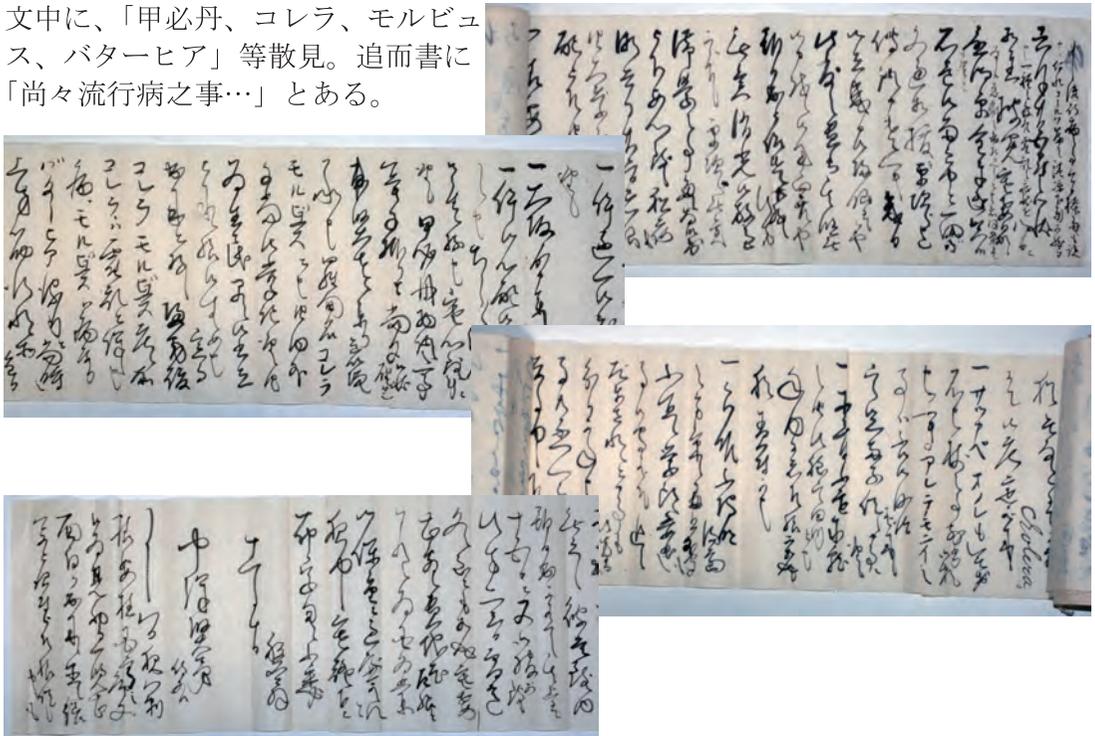


3 鎌倉時代以来僧侶・武将文書 二十一通 一巻八、〇〇〇、〇〇〇円
写真版以外では、「甲州知行目録 文禄二年 左京」、「山中長俊・浅野長政連署 毛利勝
信宛」、同種連署状、「小堀遠州」、「日乾上人」など。



4 絵師による画稿
 鍾馗と鬼 細密、淡彩、雁皮
 紙に雲英散らし 27.2×38.5
 江戸時代後期筆
 一枚 三三、〇〇〇円

5 大槻玄沢自筆書簡 佐々木中沢宛 11月10日付 長文165行 1通 880,000円
 末に「磐翁」署名。佐々木中沢(1790-1846)は玄沢と同郷出身で、江戸に出て門人となった。碩学で、文政5年には仙台藩医学校外科教授として着任。玄沢はこの間も中沢を指導することを怠らず文を認めた。この手紙も文政5~7年のものか。文中に、「甲必丹、コレラ、モルビュス、バターヒア」等散見。追而書に「尚々流行病之事…」とある。



6 岩倉具視自筆詠草 「具視」署名
 1冊 55,000円

参考 複製「岩倉日記」



葛飾北斎及び門弟による肉筆画稿 Ehon Manuscript by Hokusai and pupils.

7 『良美麗筆』刊行前段階の未刊画稿 北斎及び門弟画 文政3年筆 淡彩色 24.3 × 17.7cm、十二葉六角紋空押し朱表紙、23丁25図、保存良。 1冊 22,000,000円

『北斎画式』（文政2年、大坂宋栄堂秋田屋刊）に倣い北斎は絵本画稿を作成した。

しかし刊行されずに残ったのが本画稿。その後名古屋美濃屋伊六らがこの画稿の改訂を企画。丁の入替、29丁31図に加丁、四季風物絵本として『良美麗筆』を文政3年5月序刊行。序に「翁の良居美景」とある。

この画稿を元に門弟による版下が作られたか。細かい部分での誤った描写や、大本判型にするため上部が空白になったり、本画稿に無いものが加えられたりしている。

『北斎画式』は解題本。後出本『北斎画譜』。



刊 22 才



2 才

1 ウ

「野分」、稿の方が草の本数が多く風で曲がっている。この図『北斎漫画』十二編天保五年刊に入る。



18 才

17 ウ

苦しく瞳が三角



15 才

刊 15 才



刊 27 才



7 ウ



22 才

21 ウ



笠を加えている部分 刊 7 ウ



刊 28 ウ

22 ウ



14 才

13 ウ

橋上に
人物加
わる。



刊 13 ウ



6 才

5 ウ

な幅板橋
つが狭の
ていく左
いな橋端
いにの



刊 5 ウ

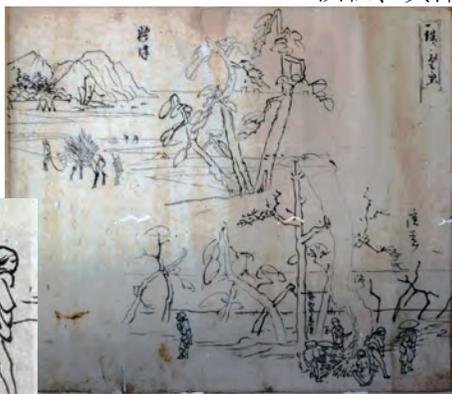
Tokaido-Gojusantsugi, Draft by Hiroshige.

8 歌川広重筆「東海道五拾三次之内」画稿
26×30.5cm の 1 紙に 2～4 図、8 枚継ぎ、
末に小 2 紙。天保 3 年頃 1 巻 2,200,000 円

見附天龍川、吉原、沼津、掛川、舞坂、
土山、鈴鹿山、浜松、興津、桑名、鞠子、藤川、
石薬師、白須賀、吉田、坂の下、三嶋、他
街道風景、各階層人物等。

歌川広重 (1797-1858) は幕府火消同心の
家の生まれ。豊広門に入り天保 2 年頃から
浮世絵を作画。天保 3 年に幕命で八朔御馬
進献で京都に随行。
その時の街道スケ
ッチか。広重は、
想像力で季節・天
候・時刻を超越。

浜松、興津



浜松 焚火の位置が榎の右



保永堂版、浜松

巻首、天龍川、吉原、沼津



藤川、創作での雪街道



古い表装で題「廣重畫稿」



反町弘文荘箱書



Original copper plate by Ao-do Denzen. Mimeguri-Chobo-no-zu. ca. 1804.



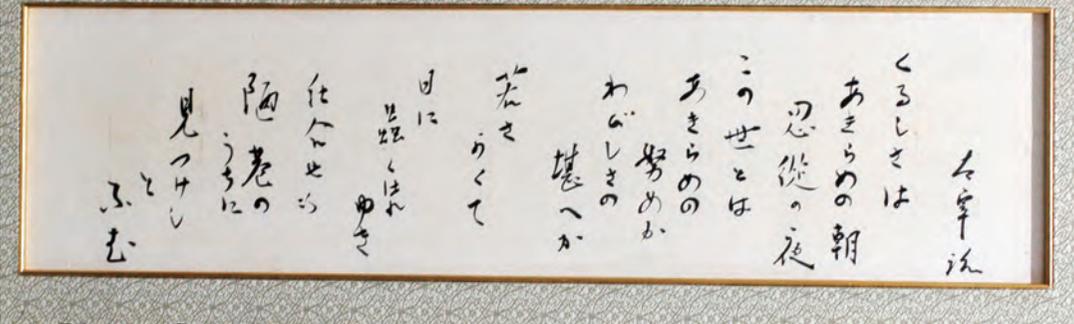
Honzo-zufu, by Iwasaki Kanen. Early 19C.



9 亜欧堂田善銅版画
三囲眺望之図 (東都名所図内) 一枚 三八五、〇〇〇円
文化元年(1804)頃 台紙貼り 12.7×18.2 糎
永田善吉(1748-1822) 福島・岩代生。『医範提綱内象銅版図』等の作品がある。

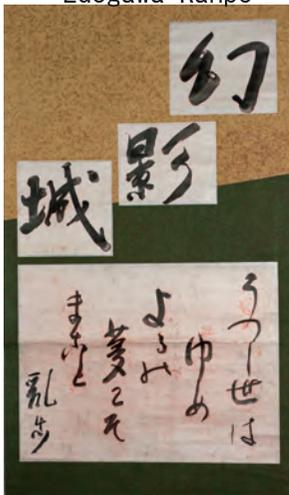
10 本草図譜 卷三十九 雑草部 岩崎灌園著 元本 一冊 三八五、〇〇〇円
文化、文政 全九六巻 卷五、八、四冊のみ木版、他巻は筆写予約配本。二六丁。残シミ補修済。

An autograph poem of Dazai Osamu.



Edogawa Ranpo

『東奥日報』2017. 3. 9



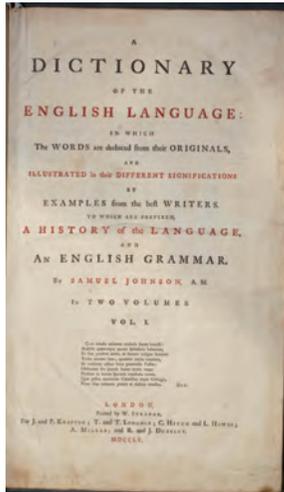
12 江戸川乱歩書 幻影城 一幅 三〇〇、〇〇〇円
幻影城は昭二六年刊、探偵小説評論集の題名。「幻影城うつし世はゆめよるの夢こそまこと 亂歩」



11 太宰治自筆書 「I can speak」小説冒頭の一節 17.5×67 糎 一額 一、二〇〇、〇〇〇円
昭和一四年『若草』二月号収載短編小説。生家津島家の元使用人外崎氏と東青病院で同僚の人に贈ったもの。

13 Samuel Johnson. A Dictionary of the English Language. London, 1755.
First edition. 2 vols. Contemporary calf, hinges no cracked. With Ex-Libris. Almost nice condition.

2冊 2,200,000円



富岡製糸場操業の発足に関わった重要書簡

14 駐日英国公使ハリー・パークス長文書簡 大納言岩倉具視宛 1870年8月27日付
江戸発 明治3年 透かし入英国製用箋、7頁、自筆署名入り。 1通 1,100,000円
封筒、翻訳官による翻訳書付。

欧州では、1850～60年代に蚕の病気、微粒子病、伝染性軟化症が蔓延し壊滅的な打撃を受けていた。そこで日本からの生糸・蚕卵紙の輸入が増えたが、粗悪品を中に紛れ込ますこともあった。それでパークスは日本のトップ岩倉に手紙を書き、英商人からの申し立て、粗悪品事例を挙げて抗議。また、蚕糸取調局を創設してはどうか、と提案。岩倉も輸出品は大事な物品なので、官営模範器械製糸場建設を決定。明治5年、富岡製糸場操業開始に至った。

